

CGTechが「VERICUT Users' Exchange 2008」を開催、 NCシミュレーションソフト「ベリカット V6.2」の最新機能を紹介

NC工作機械のシミュレーションソフトウェア「VERICUT」で知られる(株)CGTech(東京都豊島区南池袋3-9-8 H2ビル5F, Tel. (03) 5911-4688)が、9月12日(金)に「VERICUT Users' Exchange 2008 (VUE 2008)」を飯田橋レインボービル(東京都新宿区)で開催した。2003年に日本支社を設立して以来、毎年開催されているもので、今年度で6回目となる。今回、同26日に開催される名古屋会場の参加申込者をあわせると、100名を上回るユーザーおよび代理店の関係者が参加することになる。

今回のVUE2008では、今秋リリースされた新バージョンの「VERICUT V6.2」に搭載された新機能が紹介された。その一つが「ツールパスプリチェック」機能。これは、これまで行なっていた材料切削のシミュレーションをすることなくNCプログラムをチェックする機能である。アニメーションや材料除去なしでできるため、計算が速く、必

要メモリも少なく済む。また、削りすぎや削り残し、干渉のチェックなどもでき、粗取り加工用に適さない領域の探索も可能である。

そしてGコードエディタも一新された。NC行でカテゴリ別にテキストカラーを指定できるようになり、電卓機能、構文エラーのチェック機能が付加された。構文エラーの定義はユーザーによる設定も可能で、より自動化を図ることができるようになった。

また、新たにタレット設定ウィザードが追加されたのも大きな特長である。これにより、グラフィックを使ってタレット上の工具を組み立てたり、リストから工具を選んでタレット上に工具部品を割り当てたりできるようになった。そのほかにも、回転工具による旋削加工、フライス工具によるねじ切り加工、より複雑なタップ加工のシミュレーションなどが機能強化により可能になった。

さらに、VERICUTの画像に

簡単な寸法と注記を追加できるようになり、この機能を活用することで加工指示書に寸法や注記を付記して出力することができる。そのほかユーザーから出た400以上のニーズに対応する数々の機能が搭載され、ユーザーの期待に応えるソフトに仕上がっている。

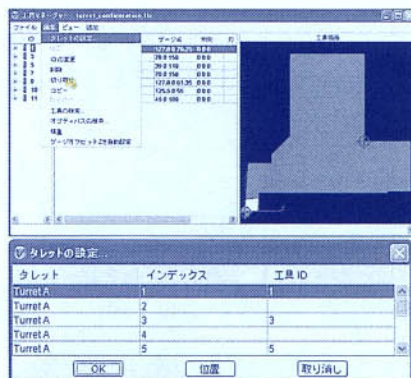
V6.2の紹介のほかには、VERICUTの便利な使い方や、ウォータジェット加工や治具のシミュレーションといった特殊な機能なども紹介された。さらには、来年以降に発表予定のVERICUT V6.3の開発概要が紹介され、来場者の興味を引いた。外部アプリケーションから直接VERICUTを実行・制御する「シミュレーションAPI」機能を実装するほか、GUIの更新、CAD/CAMとの連携の強化、そして切削材料へのニアミスチェック機能やより使い勝手の良い図面作製機能などの追加がされる予定である。

なお、VERICUT V6.2はJIMTOF2008に出展される予定である。 ⑮<資料請求番号5506>

(編集部 平井 里志)



VUE2008の様子



新たに追加されたタレット作成機能